

## 委員会視察報告書

委員会名	文教厚生常任委員会
視察地	富山県黒部市
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ちゃんの駅設置事業</li> <li>・パパママサポートセンター「たんぽぽ」</li> </ul>
調査目的	今年度の具体的研究テーマの一つである「地域で支える子育て環境」について先進的な取組事例を調査・研究し、今後策定する提言書に反映させるため。
日時	令和5(2023)年11月2日(木) 午前10時～11時30分
場所	黒部市役所、パパママサポートセンター「たんぽぽ」
調査概要	<p>●<u>赤ちゃんの駅設置事業について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27(2015)年11月1日より開始。安心して子育てができる地域環境の整備を図ることを目的に、乳幼児を抱える保護者などが外出時に気軽に授乳やおむつ替え等ができる場所を備えた施設、店舗等を登録し、広く公表している。登録施設へ「赤ちゃんの駅」ステッカーを交付し、出入口などに掲示し周知する。</li> <li>・予算額は、設備整備経費として1施設につき1回10万円を限度に補助を行う。民間施設3カ所がおむつ替え台設置等の整備のために約10万円ずつ利用したが、他は元々授乳室などを設置済みの所もあり、平成29(2017)年度以降補助金交付の実績はなく、令和3(2021)年度末で廃止した。今後はステッカー印刷代などの事務的経費を必要に応じ予算計上していく。</li> <li>・登録施設は公共施設(保健センターなど)21施設、民間施設(道の駅など)13施設、計34施設。</li> <li>・周知方法は、市のホームページ、子育て支援アプリ、妊娠届出時・新生児訪問・4ヶ月児健診時に案内チラシを配付。</li> <li>・登録施設相互間及び行政との情報交換の機会はない。市からの働きかけとしては、新規の施設には個々に働きかけや聞き取りを行っている。</li> <li>・市民の利用状況について数回利用者アンケート調査を実施。(乳幼児健診、子育て支援センター利用者200名回答)</li> </ul>

利用場所の6割は道の駅。このほか、市民病院、子育て支援施設、民間のショッピングセンター等、子どもと一緒に利用する施設が多く、目的は、おむつ替えが多かった。利用経験がない理由の半数は「知らなかった」との回答であったが、そのうち8割が「機会があれば利用したい」と回答。今後、周知を進め、子育て世代が立ち寄りやすい場所への登録を促進する。民間事業者へ登録をアプローチすると、スーパーなどは設置済みの施設の利用促進と、顧客獲得について歓迎する声が聞かれている。また、県の子育て応援団事業の子育て世代の利用購入代金の割引と共に気軽に認識してもらいたいと思っている。

- ・施設登録要件は実施要綱にまとめ、パーティションでプライバシーを守ることなど、安心して利用できるよう決めている。
- ・市がコロナ禍の令和2(2020)年に感染対策調査をしたところ、各施設ごと基準の範囲内で行っていた。

#### <パパママサポートセンター「たんぽぽ」について>

- ・平成17(2005)年からNPO法人コミュニティサポートセンターくろべに委託している。(以下説明は、ほぼ法人職員より)
- ・アドバイザー3人、提供会員91人、依頼会員208人、両方会員17人、合計316人。(令和4(2022)年度)
- ・託児年齢・利用者数：0～12歳 合計117人  
最も多いのは1歳児 65人
- ・利用目的：買い物等外出時の子どもの預かり、病院受診等様々で相談のみの件数も123件ある。
- ・幅広い利用に向けた促進策は、お楽しみイベントを通じ、登録するしないは関係なく利用者以外の人にもインターネットを使ってアプローチしている。自然と会員になる人もいる。元々の利用者が協力者になることもある。相談を通じて信頼関係を作っている。また、行政の子ども関係部署とのつながり、子ども関係ではない部署とのつながりも持つように心掛けている。
- ・トラブルについて怪我や看病に至ったケースはない。利用者側の急なトラブル(他の兄弟の受診対応により、利用対象児を面倒みる)への対応や、利用者が予約を忘れる(1時間分キャンセル料支払い)などがある。
- ・協力会員への教育は、年に1回、普通救命講習を受講してもらい、AED操作も学ぶ。利用者の特性で特別な対応が必要な人は利用前に面談をする。行政も法人からの相談を受け、例

	<p>年、養成セミナー講師を派遣したり、研修会の声かけをし、保育の質を高めたり小児医療と一緒に学ぶなど、協力している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用と勤務体系は、アドバイザーが交代で電話対応し、相談は24時間対応している。イベント時も給与を支払い、不足部分は公益収入より支払う。経営面で大変だが、事業を通して地域に根ざした活動ができることを法人の目標としている。協力会員は高齢化、移転などで人員の変更はあるが、黒部市は大手企業社員で県外から移住し、頼れる人がいない保護者がいて、保育園では対応できない病気などの緊急時に対応したり、不安を解くのが法人の役割だと思っている。</li> <li>・市からの委託料は、令和5(2023)年度から50万円増。体制強化のための人件費に充てる。</li> <li>・建物は空き店舗を利用し、商工会の空き店舗対策事業、共同募金会の協力もある。今後も行政・NPO・企業と一緒に取り組んでいく。</li> </ul>
<p>視察の様子</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">黒部市役所にて                      パパママサポートセンター 「たんぽぽ」にて</p>
<p>質疑応答</p>	<p>&lt;赤ちゃんの駅設置事業&gt;</p> <p><b>質問1</b> 利用者からの声で備品など改善されたことはあるか。</p> <p><b>回答1</b> きれいで設備も整い、安心して利用できるという声が多かったが、コロナ禍で感染・清掃状況が気になり気軽に使えないという声もあった。個々の施設の清掃規準があるが、安心してもらえるよう一緒に工夫したい。お尻ふき等備品について要望の声はない。利用者が用意していると認識している。</p> <p><b>質問2</b> 出生数、事業を始めるきっかけ、利用者数について。</p> <p><b>回答2</b> 出生数は令和4(2022)年度240名。平成28(2016)年度に300人を割り、減少傾向にある。</p> <p>事業を始めるきっかけは、当時の市長が新潟県内に視察に行き、導入を検討した。</p> <p>利用人数については施設の負担になることを危惧し、把握して</p>

いない。

**質問3** 利用者から子育てしやすいまちになったという声は。また、利用者から情報発信され、効果が上がっている点はあるか。

**回答3** アンケートで「外出しやすい」という声あり。ステッカーが目につくところにあることで周知につながるので、ステッカーの認識を進めなければと感じている。保護者の情報（SNS）のやりとりは積極的だが、行政としては把握していない。

**質問4** 当局として定期的な状況確認は。

**回答4** 日常の保健活動の際に、機会を捉えて現状確認している。

**質問5** 事業が浸透しているか。今後の拡大などの意向は。

**回答5** 民間施設は、ドラッグストアの新規開店が増えているので、声をかけていきたい。広報誌や出産する際に周知していた。伴走型相談事業で妊娠期から知ってもらう体制も取っている。

**質問6** 登録後のアップデート、最新情報を発信するための工夫について。

**回答6** 新規対象施設はホームページに掲載しているが、名称・所在地の変更は連絡が来ないことがあり、都度、担当の方で確認するようにしている。

<パパママサポートセンター「たんぽぽ」>

**質問1** 提供会員の年代について。

**回答1** 20歳代から80歳までいる。子どもの年齢・行動力を見つつ、つなぎ、マッチング等のコーディネートをしている。

**質問2** 緊急時対応はうまくいっているか。

**回答2** コーディネーターがサポーターの予定を把握している。ピンポイントで個々のサポーターの心（特性）を把握して対応し、いざとなればコーディネーターが行き、希望は断らない。

**質問3** 緊急対応は夜中も行うのか。

	<p><b>回答3</b> 夜中はない。23時まで。(資料には応相談と記載)</p> <p><b>質問4</b> 地域が広いが網羅できているか。遠い場所の対応は。</p> <p><b>回答4</b> 合併地区(旧宇奈月町)があり、協力会員の募集・養成講座をしたが、山間部への依頼はなく、保護者の市街地への通勤、通院の途中で託児する形での利用が多い。</p> <p><b>質問5</b> 当局の事業評価について。</p> <p><b>回答5</b> 市には一時預かりの保育所はあるが、急な対応ができず、「たんぼぼ」は柔軟な対応ができ有り難い。委託料を50万円増額したのも、対応人員体制の増強のため。市も前向きに周知活動に取り組む。相談についても市役所では敷居が高いが、「たんぼぼ」は相談のしやすさがある。今後、事業は拡充の方向でステップアップしていきたい。立ち上げた時は社会福祉協議会への委託もあったが、利用が少なく、預かる人の子どもへの対応知識がなかった。</p> <p><b>質問6</b> 23時までの利用について。</p> <p><b>回答6</b> 要望があれば対応する。サポーター(協力会員)の家で見る人が多い。家庭の事情(父が夜勤で休んでいる等)でだめな場合は、安全面も整っている「たんぼぼ」で見る。今後ベビーシッターもできるよう目指している。</p> <p><b>質問7</b> 提供会員の給料(高額を希望)と、利用料(低額を希望)のバランスについて市の考えは。</p> <p><b>回答7</b> 市:今後、相談していきたい。 法人:当初から最低賃金を下回っている。元々ボランティアで、誇りもあるが、長続きできない。少し値上げはしたが、行政とのすりあわせは必要だと思う。</p> <p><b>質問8</b> 利用者の24時間体制の捉え・課題について。</p> <p><b>回答8</b> 18時以降の利用料が1時間毎に上がることにより、経済面を考えてなのか、利用はない。過去にはあったが、数年前からはない。利用希望があった場合への備えだけはしている。</p>
委員会所感	<p><b>【春川敏浩】</b>        パパママサポートセンターでの取組は、商店街の空き店舗を利用しNPOの人たちで運営している。23時まで対応可能な施設</p>

で子育て世代の親にとってはとても利用しやすい体制づくりとなっている。利用者の多くはSNSにより情報が拡散されており利用者から提供会員に繋がっている。市の予算も今年度から50万円アップし250万円となっており、事業への支援強化が見える。赤ちゃんの駅設置事業は、市長の発案で始まった事業であり赤ちゃんの駅、つまり、おむつ替えの場所の提供を登録施設としてステッカーを貼り周知している。公共施設や民間施設となっているが、今後は、更なる拡大に向け、ドラックストアへの開設をアプローチして行く予定である。

乳幼児とその保護者等が、安心して授乳やおむつ替えが行える場所を備えることにより安心して外出できるので好感の持てる事業である。本市において、可能な限り取り入れを実現したい。

#### 【五位野和夫】

##### 1 パパママサポートセンター「たんぽぽ」

・依頼者とはまず相談で信頼関係を作り、市の委託事業ということで行政ともつながっていて他部署へつなげることが依頼者の安心につながっている事業と感じた。

・アドバイザーの24時間対応などきめ細やかな対応をする中で必要とされている事業でありながら、収支は厳しい状況であるが、令和5(2023)年度は体制強化のために50万円の予算増は市の理解と位置づけの重さを感じる。財政面での工夫も前向きにされた結果だと思う。

##### 2 赤ちゃんの駅設置事業

・市内の公共施設の授乳やおむつ替えをする設備の整備を進めることにより、民間施設の整備も進み新規施設においてはバリアフリーの観点から、より施設整備が進んだのではないか。このことにより保護者の外出の機会が増え社会参加と経済効果の向上にもつながったと考え、地域の活性化にもつながる事業と考える。

#### 【上森茜】

赤ちゃんの駅設置業では、黒部市長が新潟県に視察に行った際に目にしたことから始まった事業であり、市内の公共施設はもちろん、民間施設の授乳、おむつ替え可能な場所を冊子またはネット上で公表している。自分自身も市内でどこに授乳室があるか分からず車の中で対応した経験もあり、柏崎市内でも是非とも取り入れる事が望ましいと感じた。

パパママサポートセンター「たんぽぽ」は実際にNPOが運営している施設で説明が行われた。民間の運営側のきめ細やかな対応や協力会員の仕事などのスケジュールの把握をし緊急預かり依頼にも対応できる信頼性は素晴らしい。また、預かる場所を基本的に運営している施設内とすることは柏崎市では難しいかもしれないがそういった場所があると協力会員も増えるのではないかと感じた。

#### 【重野正毅】

赤ちゃんの駅設置事業は、新潟県の事業を参考にした市長発案の事業とのことでした。赤ちゃんの駅は現在、公民併せて34か所。新潟市や見附市を始め、いくつもの自治体で取り組んでいることもあり、柏崎市でも開設は考えられることです。黒部市の令和4(2022)年度の出生数は240人。柏崎市の人口の半数である自治体がこの出生数ですから、柏崎市としての出生数増進の在り方をこれまでの視点ではなく、あらゆる方向から考えていかなければならないと改めて思いました。パパママサポートセンター「たんぽぽ」は平成17(2005)年からNPOに委託して始めたものです。市としても今後拡充の方向とのことでした。そこでは会員からの相談を3人のアドバイザーが24時間体制で受け付けている仕組みがあるとのことは市民の安心に直結します。民間が工夫して頑張っているところを市が支えていくことは、全国への発信などにおいて信頼性を増し、市民の幸福度増進にも効果的なものだと思います。

#### 【星野幸彦】

パパママサポート事業は平成17(2005)年からと早い時期から委託事業として開始された。手助けをする登録会員と手助けを必要とする依頼会員をマッチングする同様の事業については柏崎市でも実施されているが黒部市はNPOへの委託事業であり、3人の専属アドバイザーが24時間体制で受付を行っており、緊急な相談にも対応されている点は市民にとっては非常に安心できるもので、非常に理想的な事業であると感じたが、委託先に過大な負荷を与える可能性も危惧されるところではあったが、委託先の頑張りを市が積極的に下支えをしていくということであった。利用しやすい事業を目指して柏崎市も参考とできる部分も多いと感じた。

赤ちゃんの駅設置事業は黒部市長の提案で事業化されたが、新

潟県視察の際の同事業を参考としたとのこと。多くの自治体でも取り組んでいる事業であり、柏崎市においても施設提供者の理解のもと市民ニーズに答えるため、事業に取り組むことも必要ではないかと感じた。

**【西川弘美】**

赤ちゃんの駅設置事業は、34カ所のうち21カ所が公共施設、民間施設には13カ所ある。市の定期的な状況把握、設置者の情報交換はなく、市民の周知も行き渡ってはいなかったようだが、現在は啓発に取り組み、市民の利用希望の声は把握しており、スーパーなど民間から設置の希望もあるとのこと。柏崎市でも検討し取り組んでいけるのではないかと考える。

パパママサポートセンター「たんぽぽ」は、主体のNPO法人が「断らない」を目標に、利用者側の緊急時の預かりや、時間や内容に幅をもった柔軟な支援を行っているところが印象的だった。職員の熱意と工夫が素晴らしい。同様の支援を長期的に行うためには、資金面で補助が必要という法人からの要望に対し、市も体制強化のために予算などで支援しており、一体となって取り組む意欲が感じられた。

**【三嶋崇史】**

黒部市は、富山県東部に位置し、秘境黒部溪谷や黒部川扇状地湧水群、富山湾などの自然や地域独特の文化が至るところで見られる。

パパママサポートセンター「たんぽぽ」の取組について現地施設で説明を受けた。黒部市の委託事業で、平成17(2005)年からNPO法人としてスタートして以来、幅広い世代とのつながりを大事にしている。長年の経験によりマッチングもスムーズに頼むことができる。周知やお便り、SNSの発信で認知度も高く、事業拡大している。「赤ちゃんの駅設置事業」では、乳幼児を抱える保護者が外出先で授乳やおむつ替えをするため気軽に立ち寄れる施設が市内34カ所ある。事業予算はステッカー費用くらいであり、施設ごとに対応をしている。市、地域企業、公共施設が協力し合い子育てに優しいまちづくりをしている。妊娠、出産から、その子が育つまで切れ目ない支援の充実を図っている。柏崎市においても、赤ちゃんの駅のような取組が広がれば、地域社会全体で子育て支援強化につながる。未来ある事業だと感じている。